

2020年から始まる新学習指導要領(※) どんな変更点があるの？

学習指導要領(※) 全国どこの学校でも一定の水準で教育ができるように、文部科学省が決められている教育課程の基準のこと。

2019年度も後半に突入しました。

来年度からの導入が決まっている新しい学習指導要領では「何を学ぶか」だけではなく

「どのように学ぶか」と「何が出来るようになるか」も
より重視していくようになります。

今月のFLAPS通信では、
学習指導要領がどのように変更になるか
を項目別にお伝えします。



英語教育の早期化 小5からは成績がつく！

来年度からは小学校での英語教育の開始が2年前倒しになり、3・4年生から英語に慣れ親しむために「聞く」「話す」を中心に、年間35時間(週に1回程度)の授業が行われます。(すでに開始している学校もあります。)

また、5・6年生では「聞く」「話す」だけでなく「読む」「書く」も加わり、広範囲の学習内容になります。そして他教科同様、通知表に成績がつきます。

新学習指導要領では「どのように学ぶか」と「何が出来るようになるか」がより重視されていくということでした。しかしながら、今までの「何を学ぶか」、つまり「知識を覚えること」が必要なくなるわけではありません。むしろ、さらに知識が重要になります。なぜなら、しっかりした知識の土台がなければこれからの学びである「思考力」などは身につかないからです。

学習塾FLAPSでは、これからも「五つの根」を大事にしながら新学習指導要領に求められる教育の実現を目指していきます。教育改革についてのご質問があれば、遠慮なく講師にご質問ください。

道徳にも成績がつく！

新学習指導要領では、答えが1つではない問題に対して子どもたちがしっかりと向き合い、議論を交わし、人格の成長を促し、いじめ問題の解決を図ります。成績は数値評価ではなく、記述式でつけられるとのことです。

プログラミング教育が始まる！

プログラミング教育を導入する目的は、「論理的思考力」や「問題解決能力」の育成です。現代社会では「情報を整理し、道筋を立てて考え、解決する能力」こそが必要という考えに基づいています。導入の仕方としては、教科として独立するのではなく、国語や算数の授業に盛り込まれていきます。

案内配布が始まりました

冬期講習、お申し込み受付中！

受験・進学・進級、そして来年度からの学習指導要領改訂に、備えよう。

